

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	12月	6日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	東辻
取材対象先	大和高田市：専立寺の表門、築地、太鼓楼（茶所※） ※茶所は現存せず				

所在地	大和高田市内本町10-19				
所有者（取材 対応者）名	専立寺（専立寺 脇屋大樹住職）		連絡先 0745-52-5180		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：専立寺				
市町村 指定文化財	彫刻	軀			
	建造物	3棟	表門、築地、太鼓楼（茶所） 1996(平成8)年12月24日指定		
文化財指定理由	1838(天保9)年の火災を免れた創建当初の遺構であること。専立寺が、近代の商工都・高田の母体となった寺院であること。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	表門には災報知器が設置され、太鼓楼には消火器が置かれている。	問題無いと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	市街地のため、獣害は全くなし。	問題無いと思われる。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	創建時の専立寺は今の2倍の寺域があり、隣接する大和高田市立高田子ども園や小学校は、専立寺の寺子屋が発祥となる。また、境内地は門前の本町通りより1段高く、石橋も残されているので、周りを堀で囲まれていたことがよく分かる。門からの侵入者を監視できる位置に太鼓楼があり、城塞的な様式が取られている。専立寺の創建により多くの商工者が寺域に集い、大和高田市発祥の母体になったという。現在も約400軒の門徒さんがおられ、ご住職も代々引き継いで様々な布教活動をされており、今のところ課題は見られない。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

高田は、横大路と下街道が交差する地点にあり、大和川の水運も利用できることにより、近世に商業地として発展し、昭和30年代ごろまでは県下有数の商店街として活気にあふれていたようだ。その発展の礎となった専立寺に関しては、ご住職のご努力により心配の無い状況だが、大和高田の町には往時の活気は無く、シャッター商店街が多く見られる。しかし、江戸～大正にかけての建築物が点在する趣のある街並みが残っており、今後の発展につながることを願う。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	12月	6日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	東辻
取材対象先	大和高田市：専立寺の表門、築地、太鼓楼（茶所※）				※茶所は現存せず ＜写真撮影許可済み＞

文化財指定名 表門、築地、太鼓楼（茶所）

専立寺表門	専立寺築地
	
専立寺太鼓楼	表門に施された彫刻
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>1838(天保9)年の火災から免れた表門・築地・太鼓楼が大和高田市文化財に指定されている。表門と築地は1794(寛政6)年の建立で、表門の上部には華麗な彫刻が施されている。共に約20年前に改修工事済。太鼓楼は1786(天明6)年に建立され、かつてその中で使われていた太鼓も修復して別所で保管されているとのこと。太鼓楼も壁塗り替えと耐震工事をされている。</p>	<p>1600(慶長5)年に浄土真宗西本願寺十二世准如上人が、本願寺掛所御坊として創建した。大和五ヶ所御坊の1つ「高田御坊」と呼ばれ、本堂・書院・対面所・鐘楼・太鼓楼・門などが立ち並ぶ壮麗な寺院であった。当時高田郷一帯を支配していた桑山氏の力もあって、専立寺を中心に寺内町が形成され、大和高田が商工の町として栄える礎ともなった。1838(天保9)年の火災で多くの建物を消失したが、その後対面所と書院が再建された。</p>